

あーち通信 2006 年 3 月号 (第 6 号)

神戸大学大学院総合人間科学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センター
(HCセンター・サテライト施設「のびやかスペースあーち」事務局)

〒657-0015 神戸市灘区鶴甲3-11

TEL 078-803-7972 / 7973 FAX 078-803-7971

e-mail: zda@kobe-u.ac.jp, itoa@kobe-u.ac.jp

「あーち通信」は、4月号から編集委員会で作ろうと思います。
編集委員になってくださる方を大募集中です。

特集 「あーち」の創設にあたって(6) 2005年度「あーち」の成果と課題

ち ょ っ と ず つ 軌 道 に 乗 っ て き た か な

津田 英二 (神戸大学HCセンター、障害共生支援部門)

オープンしてから、まだ半年。「あーち」での取り組みを評価する時期には早いかもしれませんが、年度末という時期なので、「あーち」で何ができただのかということの整理をしてみたいと思います。

どこまで、みんなの「あーち」に育ったか

「あーち」に来館する方々を「お客さん」と呼ばないようにしてきました。その代わりに「来館者」とか「参加者」というふうに呼んでいます。この通信でも何回も述べてきましたが、「あーち」に来る方たちには、「何かをしてもらいたいなぁ」というのではなく、「何かをしたいなぁ」と思っていただけたらという思いがあるからです。

それで、「あーち」について評価する時、私が一番最初に考えたいのは、どれだけ、みんなの「あーち」に育ったかということです。

どうしたら、みんなの「あーち」に育つだろうかということについても、試行錯誤をしました。うまくいかなかったことのほうが多いですが、うまくいったこともいくつかありました。例えば、年末の大掃除に何組かの親子が参加してくれました。「いつも使わせてもらっているの、感謝の気持ちです」といってくださいました。とても嬉しいできごとでした。

来館した方とお話をしていても、「あーち」に愛着をもっていただいているなぁと感じることが多くなってきました。

来年度はもっと、来館者のみなさんに対して、「あーち」をつくっていく機会を提供していきたいと思っています。さっそく、この「あーち通信」の編集に関わっていただくことにしました。できること、やり

たいことを、積極的にお話ください。思いがけないことが実現するかも。「子連れだから足手まといになるのでは……」とか「私なんかでは役に立たないのでは……」とか、いろいろおありかもしれませんが、力を補い合いながらのんびり進んでいくのが、「あーち」流です。ぜひ気後れせずにご参加ください。

たくさんの出会いがあったか

毎日、「あーち」にはいろいろな人たちが編み出すドラマがあります。ハラハラするようなドラマもありますが、大らかに接してくれる人たちがそれを見守っています。そのような関係が、たくさんの出会いを育んでいるのだと思います。

やはり子どもは人と人とを結びつける大きな力をもっているなぁと感じます。「あーち」に慣れてきた子どもたちが、まわりの大人をどんどん巻き込んでいくのを目にしました。そこからコミュニケーションの輪がさらに広がります。子どもの力は偉大だと感じます。

私自身、「あーち」でたくさんの出会いをしました。バレンタインの贈り物を4つももらったのが何よりの証拠です(笑)。もちろん自己新記録の更新です(苦笑い)。人との出会いばかりでなく、今まで縁の薄かった世界、さまざまな人間の営みとの出会いもありました。ミュージアム事業に関わる出会いは、そういう出会いでした。

まだまだだなぁと思うこともたくさんあります。「あーち」に足を運んでくれる人たちの数が、まだまだ限られているからです。まずは学生のみなさんに、出会いの豊かさをもっと体験してもらいたいと

強く思っています。出会いは、それなりの構えがないと出会いになりません。積極的な関わりを避けていたのでは、単に会っているだけという関係で終わってしまいます。出会おうという気持ちが生まれてくるような、場面をもっともっと創っていかなくてはいいですね。

どこまで、社会的にアピールできたか

今年度いっしょうけんめい頑張って、それなりの社会的評価を得たら、人もお金も自然に集まってくるだろうという(甘い)見通しで「あーち」に取り組み始めたところがあります。

社会的評価をどこまで勝ち得たかというのは、運営に携わっている私たちにとって死活問題です。最初に期待したほどでもありませんが、それなりの手応えを感じるようになってきました。見学に來られたり、取り組みの記事の執筆を依頼されたりということは、すでにいくつかありました。助成金の話などは、先方から舞い込んできたりすることもありました。

けれども、まだまだだぞーという気持ちのほうが強いです。まだ大学と地域が連携しているという点で特色ある施設として紹介されているに過ぎません。本当は、もっと中味が勝負しないといけないと思っています。「あーち」にしかないものを創り、アピールすることで、世界に「あーち」あり！といえるようになるのだと思います。そうなるまでには、まだ時間がかかるかな。

「障害共生支援」の試みとして

運営が少しずつ軌道に乗ってきて、「障害共生支援部門」として実践すべきことに手が回るようになってきました。

先日「障害のある人たちが地域で当たり前に住生活するためのたまり場づくりセミナー」という長い名前の催しを「あーち」で実施しました。関東や中京からも参加者があり、思いの外多くの方たちに集まってくれました。内容的にも意義深いものになりました。地域に居場所がない人たちに、「たまり場」を提供したいという思いは、実はたくさんの人たちが抱いているということがわかりました。けれども、そういう実践は、場所やお金や人といった社会資源がないために、実現しなかったり、「たまり場」が必要だという思いに自信をもてなかったりしているという実態も確認できました。

「あーち」が、いろいろな人たちのたまり場となって、地域で生活していく人たちのパワーの源泉になっていくというシナリオを現実のものにしていくために、ひとつずつ足りないところを埋めていく作業をしていかなければなりません。「あーち」がそういう場になるだけでなく、そうした実践を相互につないでいく拠点になることも、実現可能な目標になったと思います。

来年度のこの時期に、さらに飛躍した「あーち」を振り返ることができたらと念じています。いっしょに楽しく、大きな夢を描きましょう。

今年度の評価と来年度の展望(「あーち」の子育て支援について)

伊藤 篤(神戸大学HCセンター、子ども・家庭支援部門)

今月号は今年度の最終号です。そこで、9月からこれまでの「あーち」における子育て支援事業を振り返り、それを踏まえて来年度の展望について書きたいと思います。

基本サービスであるドロップインはとても多くの方に利用していただきました。1月からは相談員の方も毎日配置できるようになりました。また、利用者の方に選択していただくサービスとして「出産と子育ての準備講座」「おかあさんのおしゃべり広場」「赤ちゃんマッサージ」「子育て用品リサイクル交流会」「クイリング教室」など(回数は多くありませんが)をおこなうこともできました。

しかし、まだまだ、計画・実施・評価の手順や広報の方法などが不十分で、コーディネートが難しいと感じています。また、これらを実施する曜日や場所の問題もでてきました。日曜日におこな

ったり、「こらぼ」でおこなったりすると、「ふらっと」に來ている多くの利用者の方々に見てもらえず、このようなプログラムがあること自体を知ってもらえないという面があるのです。そこで、今年度の後半はできるだけ「あーと」のコーナーや「ふらっと」の「たたみスペース」を利用するなど工夫をし始めました。

さて、来年度のことです。もちろん、基本サービスのドロップインは続きます。これに加えて、すでに述べたように、多くのひとが目にする場所、多くの人が來ている曜日にできるだけ選択プログラムをもっていくことにしたいと思います。さらに「出産と子育て準備講座」を地域の産科と連携をとることによってより発展的な内容にすることを計画中です。また、新たに追加するのは「子育て講座(生後1年までのお子さんをもつ親を対象)」と「赤ちゃん触れあい体験(小学生を対象)」

をセットにしたプログラムです。これは毎月1回のペースでおこないたいと思っています。さらに、(今、週に1回来ていただいている保育所の先生の合意を得る必要がありますが)「子どもをどのように預けるのが相談できるコーナー」や、他の機関に応援をもとめて「再就職に関する情報や方法が相談できるコーナー」の設置も視野に入れています。

最後に、皆さんにお願いがあります。上記の様々なプログラムの目的・方法などをできるだけ皆さんの目にふれるようにしていきます。そして、参加してみたい・中味づくりにかかわりたいと思われたら、ぜひ伊藤(itoa@kobe-u.ac.jp)までご一報ください。どうぞこれからもよろしくお願い申し上げます。

「あーち」での、いろいろなプログラム(3月)

●赤ちゃんからおとなまで、誰でも

自由に楽しむ絵の世界 いろいろな方法で絵を描いてみましょう。絵を描くのがもっともっと楽しくなりますよ。リーダーは前田さん。

音楽の広場 誰でもが音楽を楽しみ、音楽を通していろいろな人と仲良くなることをめざす広場です。

お話の国 お話を聞きながら、ゆったりとした時間を過ごしましょう。

紙芝居 いろいろな年齢に応じた紙芝居。リーダーは北林さん。

折り紙 昔ながらの折り紙の定番から、新しい創作折り紙まで、みんなでワイワイ言いながら折ります。リーダーは、井上さんと杉本さん。

人形遊び 人形で遊びながら、みんな仲良くなりますよ。リーダーは中井さん。

誰でもたまり場 障害のあるなしに関わらず、誰でもが、安心してリラックスできる空間づくり。

●3歳くらいからおとなまで

らくがきお婆さんがやってくる 自分の中から湧き出てくる表現を大切にしながら、色や形で遊びます。

メダカ親子クラブ 手作りでおもちゃをつくって遊びます。リーダーは学校の先生や先生の経験者。

立体の紙工作 みなさんだけのお面やとびだす絵

本をつくってみましょう。リーダーは中さん。

サイエンス・プログラム 科学のおもしろさを体験しましょう。リーダーは科学者の卵(学生)。

●赤ちゃんと保護者

ほのぼの音ランド ちっちゃいお子さまと保護者のみなさま、いっしょに楽しく音で遊んでみましょう。

2月からリーダーは鷲見さん。

●障害のある子どもたち

ぼっとらっく (予約制)発達障害のある子どもや親の相談やセラピーの場です。リーダーは高田哲(さとし)先生。

ほっと (予約制)発達障害のある子どもを対象にした、学習プログラムです。リーダーは山根さん。

●おとな(お子さん連れの方もどうぞ)

心に浮かぶ言葉・ことばの広がり ことばの広がりと一緒に感じ取り、考えます。リーダーは鈴木幹雄先生。

筆をもとう きれいな字のためのちょっとしたアドバイス。リーダーは沼館さん。(託児はありません。)お母さんのおしゃべり広場 来館者のみなさんのコミュニケーションの場。お気軽にどうぞ。

3月の特別プログラム

3月13日(月)神戸大学発達科学部にて、「脱音楽療法」の座談会(若尾裕さん・菊地美伽さんを囲んで)

3月19日(日)日曜日だけど、特別開館。人形劇やゲーム大会、子どもの絵のギャラリーなどを開催。

(C S神戸主催「よってたかったNPO」の灘会場として展開します。)

3月17日~22日(予定)子どもの絵ギャラリー

(3月14日~16日に、展示学の講座やワークショップを開催。特に関心のある方はご連絡ください)

ご寄付について

「あーち」を支援する任意団体「子育てと共生を考える会」が創設されました。寄付金はこちらの会を通して大学に対する寄付となり、大学から「あーち」へ予算配分されます。ご寄付は、伊藤が津田に直接お渡しいただくか、下記口座にお振り込みいただき、住所、氏名、電話番号をお教え下さい。

三井住友銀行 六甲支店 普通 (口座番号) 4195504 (名義) 子育てと共生を考える会